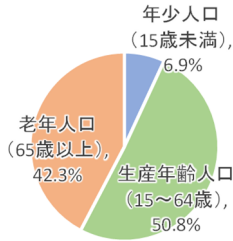


田井 (たい)

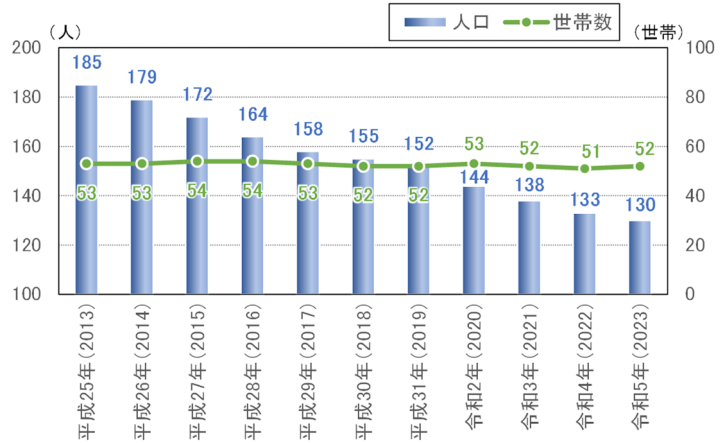
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	130人
世帯数	52世帯
高齢化率	42.3%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南北は山が迫り、北東から南西に流れる田井川と川沿いの県道三尾浜坂線を挟んで家屋が散在する。
地名由来 寛政10年(1798)に指杭村から豊岡藩奉行に出された文書に「むかし当所は田井村と言ひ、ただ今の田井村は門前と言つて一村でした」とあり、田井は楞厳寺前にあるため門前と言ひ、指杭村と一村であった。「田井」は、「田に引く水を溜める所」や単に「田」などの意味(『広辞苑』)によると思われる。(「たじま地名考」日本海新聞)
歴史等 「門前」の名は松尾谷(田井の小字)寄進に関する「楞厳寺文書」に見られ、近世の田井村はこの門前村が惣名を称して成立したと思われる。地区の南西(字城山)には戦国末期の城跡がある。
 近世の田井村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は293石余。生業は沿岸漁業や農業で、近隣の村々との漁場争いや用水論争が数多く繰り返されたことが記録に残る。田井川は、清富字ニヤガハナで現久斗川に合流していたため、排水が悪く、幕末に郷坂にトンネルを抜き、北東に流れるよう改善された。
 明治22年(1889)東浜村の大字となり、明治24年(1891)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数52、人口は男139・女122。

これまで把握している文化財

文化財の件数 107件 (うち指定等文化財 13件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等			
有形文化財	建造物	建築物	0	26			
		石造物	0				
		工作物・その他の構造物	0				
	美術工芸品	彫刻	3				
		絵画	12				
		工芸品	0				
		書籍・典籍	3				
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	8	0			
		音楽	0				
		演劇	0				
		工芸技術	0				
		その他の無形文化財	0				
		民俗文化財	有形の民俗文化財		信仰の場	6	12
					祭具	0	
					民具	0	
					その他の有形の民俗文化財	1	
			無形の民俗文化財		年中行事・民俗芸能	5	
民俗技術	0						
食文化	0						
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	67			
		その他の無形の民俗文化財	0				
		散布地・集落跡・生産遺跡	4				
		古墳・その他の墓	58				
		城館跡・寺社跡	2				
		街道・古道等	0				
	名勝地	戦争遺跡	0				
		その他の遺跡	0				
		山岳・高原・丘陵	0				
		海岸・海浜・島嶼	1				
	動物・植物・地質鉱物	河川・滝・溪谷・湖沼	0				
		公園・庭園	0				
		その他の名勝地	0				
	動物	0					
	植物	1					
文化的景観		地質鉱物	1	0			
伝統的建造物群		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0			
		宿場町・城下町・農漁村等	0	0			



楞厳寺



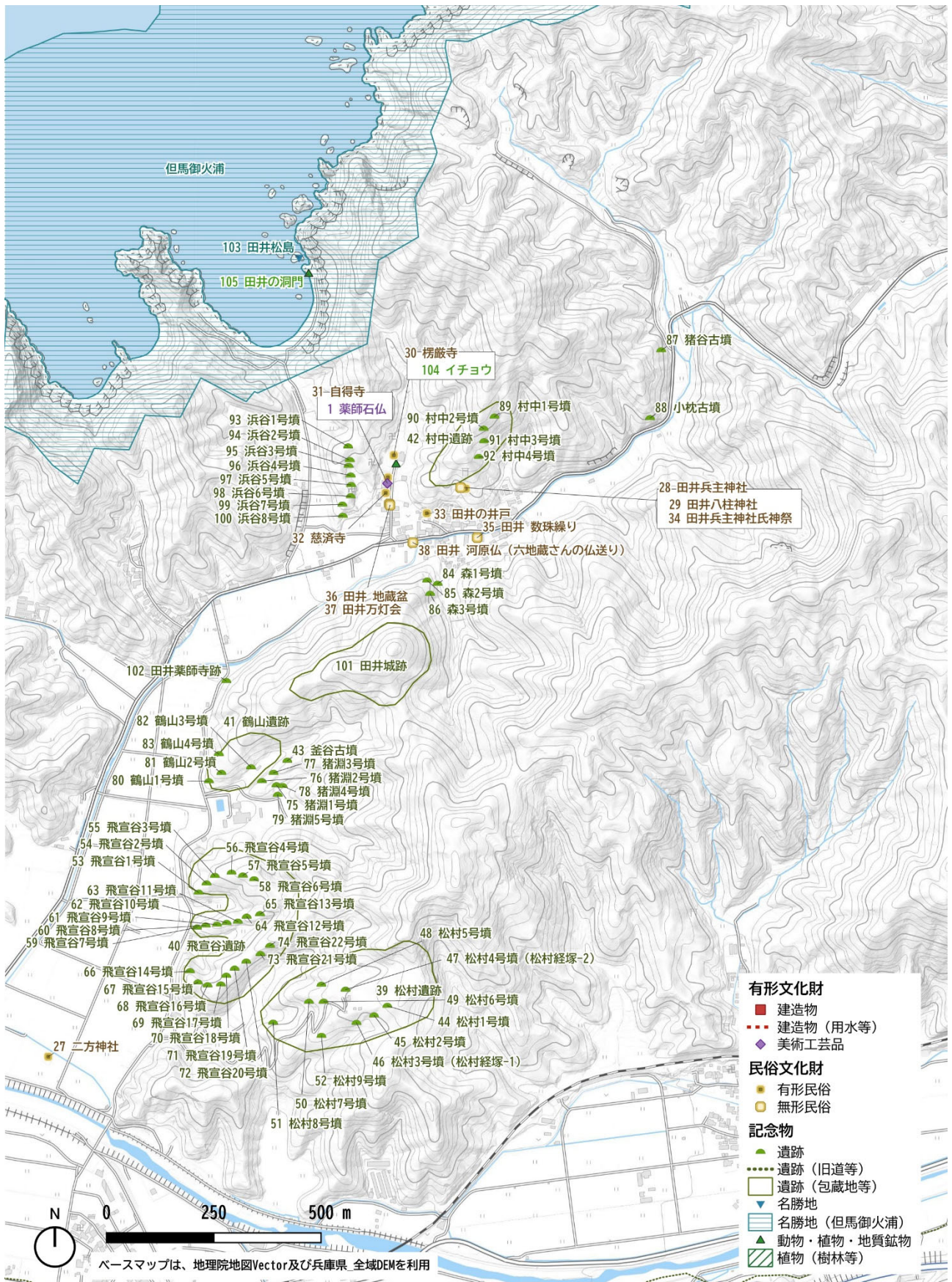
数珠繰り



田井の浜

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

文化財の一覧

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	1	自得寺薬師石仏	田井の近世寺院である薬師寺に祀られていた石仏。自得寺の庭に移されている。
	2	自得寺の釈迦如来像	室町期から江戸期の木製仏で自得寺の本尊。宝冠釈迦如来像。脇侍は地藏菩薩と聖観音菩薩。
	3	慈濟寺の釈迦如来像	室町期から江戸期の木造仏で慈濟寺の本尊。脇侍は文殊菩薩と普賢菩薩。
絵画	4	絹本着色南溟禪師像	楞嚴寺所蔵。楞嚴禪寺開山南溟禪師の晩年の姿を写した頂相。鉄線描の鋭い筆致を示す半身叉手の図容で、鋭い眼光、真一文字に結んだ口元に厳しい気骨を伺うことが出来る応永初年（1394）の優品の1つ。 県指定重要有形文化財
	5	絹本着色夢窓国師像	楞嚴寺所蔵。天龍寺（京都市）開山夢窓国師は南溟禪師の師である普明国師（春屋妙葩）の師であり、楞嚴禪寺にこの画像があることは意義がある。本画像は曲阜に半跏の姿で坐り、右手に警策、左手を膝上に置く像容で顔はやや老令に描かれている。構図上からは、自賛のある相国寺の頂相に近く高僧の風貌を活写している。図上の賛は春屋妙葩の墨筆と伝えるが、五山文学最秀の詩僧春屋がその師疎石の頂相に賛文したことは特筆すべきことである。夢窓国師の33回忌にあたる弘和3年（1383）にその法要のため新調したものと推定される。 県指定重要有形文化財
	6	絹本着色仏国国師像	楞嚴寺所蔵。禪僧仏国国師は夢窓図師の師にあたり、南溟禪師の3代の祖にあたる。本画像は、半身叉手の図容で妙智溢れる壮年禪僧の風貌に描かれ、一徹な人柄を見る思いがする。図の上部に五山僧として著名な玉腕梵芳の賛文の墨書がある。玉腕梵芳は南溟禪師と同門に当り、その縁でこの賛文を書いたものと考えられる。この頂相は仏国国師の百回忌に当る應永22年（1415）に作られたと推定される。 県指定重要有形文化財
	7	絹本着色山名時熙像	楞嚴寺所蔵。山名時熙は、応仁の乱に活躍した山名宗全の父で、室町幕府の4職の1つの侍所職に任じられた。南溟禪師に帰依し、楞嚴禪寺の整備繁栄に尽した。本画像は、扇を持つ法体姿で、鉄線描による簡略な着衣の表現と柔らかい細線を駆使して面貌を描き、戦乱の厳しい世を生き抜いた武将の逞しい堂々たる体軀、風格が滲み出ており、正長元年（1428）当時の肖像画では、最も注目すべき優作の1つと認められている。 県指定重要有形文化財
	8	絹本着色北野天神像	楞嚴寺所蔵。寺伝によれば永徳元年（1381）、楞嚴禪寺開祖南溟禪師運病に伏し、ある時夢の告げにより北野天神を勧誘し、以来、同寺の鎮守として祀られている。的確な描写力が高く評価されている。 町指定文化財
	9	不動明王	楞嚴寺所蔵。縦88cm、横39cmの絹地に不動三尊像が描かれている。作者は不明であるが室町時代末から江戸時代初め頃の作と思われる。 町指定文化財
	10	絹本着色十六善神図	楞嚴寺所蔵。禅宗では、禅の思想を伝えるものとして大般若経を大切にしているが、中国から禅宗が伝えられて以来、十六善神図が多数つくられた。釈迦如来を中心に文殊、普賢が左右に従い周囲に十六善神を配する構図。本図は、筆線や彩色の方法などからみて、室町時代末に製作されたものと推定される。105.6×57.4cm。
	11	絹本着色延命地藏菩薩二童子像	楞嚴寺所蔵。岩上に坐す地藏菩薩と矜羯羅・制多迦の二童子を描くもので、このような図様は珍しく、延命地藏経の所説によるものという。金泥を主体にして描いており、室町時代以降の製作である。円光背を後にした慈悲深い表情の地藏菩薩は細線を用いて丁寧に描かれているが、二童子はやや簡略な筆致が目立ち、流水も簡単に表現され、主尊のみに注意が集中しているのが伺える。88.8×37.9cm。

分類	番号	名称	概要
絵画	12	絹本着色不動明王二童子像	楞嚴寺所蔵。典型的な不動三尊の形式をもつ画像で、八大童子のうちの矜羯羅童子、制多迦童子を描いている。不動明王が少し斜めに体を向けて岩上に立つことなどからみて、高野山の波切の不動明王を手本として描いたものと思われる。不動明王の着衣、条帛にみられる切金文様、二童子の裳に描かれた彩色文様、白波の立つ表現などから、室町時代末から江戸時代初期にかけて製作されたものとみられる。88.8×39.8cm。
	13	絹本着色千手観音二十八部衆像	楞嚴寺所蔵。十一面四十二臂の千手観音立像を中心に周囲に二十八部衆、風神、雷神を描き加えたものである。千手観音は独尊のものが多く、本図のように二十八部衆等を伴う図は珍しい。筆線の使い方、切金文様や賦彩等からみて室町時代末期に製作されたものと推定される。88.4×39.8cm。
	14	絹本墨画羅漢像	楞嚴寺所蔵。もとは十六羅漢が一具として完備していたものと推定される。3幅の尊名は不明。中国請来の羅漢像の何代目かの図を手本として製作されたものと考えられる。岩や樹木草花、羅漢の着衣、日本人的な風貌等からみて江戸時代に製作されたものと推定される。120.1×64.8cm、120.1×64.9cm、120.1×64.4cmの3幅。
	15	自得寺の襖絵	江戸時代の鳥取藩御用絵師、小畑稻升が安政6年(1859)の描いた本堂全部の襖絵。
書跡・典籍	16	妙法蓮華経 (伝順徳院皇女消息経)	楞嚴寺所蔵。順徳院姫宮・因幡国服部庄と楞嚴寺との関係については、享和2年(1802)に楞嚴寺の由来を記した「領家相伝之説」に詳しく記されている。本経は、世にいわれる春日版に属し、鎌倉時代中期からやや後期に入りかけた頃のものといわれ、天地に金銀切箔砂子をまいた八巻の装飾経である。順徳院の姫宮の和歌や仮名文を継ぎ合わせたものに、経文を印刷して故人をしのび、その追善供養をするとともに、散逸しないよう大切に保存されてきたものである。 [県指定重要有形文化財]
	17	仏説観無量寿経・仏説阿弥陀経 (伝順徳院皇女消息経)	楞嚴寺所蔵。2経は1巻ずつで、1篋に納められており、「妙法蓮華経順徳院皇女消息経」8巻と合わせて、同時同処の刊印と思われる。順徳院は歌聖といわれ、その宸翰「八雲御抄」は永代歌学の規範とも仰がれたが、承久の乱により佐渡に流された院の姫宮が、この世の栄華に恵まれず、ひそやかに和歌の道にいそまれた生活の一面が、しのばれるこれら消息装飾経は、秘宝とも言うべきものである。 [県指定重要有形文化財]
	18	自得寺の掛軸	井上寒髯の修行の様子や人柄を伝える文章が記されている掛軸。観月和尚書。
古文書・歴史資料・考古資料	19	楞嚴寺文書	楞嚴寺所蔵。後小松天皇論旨他1巻(2通)、足利將軍家御判御教書1巻(4通)、楞嚴寺什書巻物2巻(36通)の計4巻と、南溟禪師契状1幅、南溟禪師置丈1幅、楞嚴寺開山禪師年譜1幅、山名時熙書状1幅の計4幅。これらはいずれも楞嚴寺の歴史を知る上で貴重であるばかりでなく、南北朝から室町時代の但馬地域の歴史を知る上で不可欠な重要史料である。 [県指定重要有形文化財]
	20	夢窓国師書状	楞嚴寺所蔵。林屋辰三郎氏が激賞した史料で、夢窓国師の晩年の真蹟の自筆書状と推定される。伝来については不明であるが永島福太郎氏も『百人の書蹟』(淡交新社刊)に、日本の古今の代表的な書として紹介している。 [県指定重要有形文化財]
	21	服部庄重書案	楞嚴寺所蔵。因幡国服部庄はもと順徳上皇の所領であったが、なくなられた後左衛門督局へ、さらに元徳2年(1330)に前大蔵御楊梅盛親に相伝され、盛親の子、親行から永徳2年(1382)に楞嚴寺に寄進されたものである。「服部庄領家職手継重書案一巻」におさめられた13通の文書案は、これら服部庄の伝領の経過を示すものである。 [県指定重要有形文化財]

1-05 田井

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	22	開山南溟禪師昌運系譜	楞嚴寺所蔵。楞嚴寺開山南溟禪師は、権中納言平宗経の第二子である。従って姓は平氏で、桓武平氏の葛原親王に始まるがこの系譜によって伺える。葛原親王より12代、六条大納言時忠より昌運の父に至る系譜、及び西洞院家参議行時より代々の家系を示した系図となっている。42.4×31.2cm。
	23	楞嚴寺堂宇再興願	楞嚴寺所蔵。豊田秀吉の但馬平定などによって楞嚴寺の諸堂宇廃壊に及び、一山荒廃の状態となった。わずかに開山堂一宇と慈濟軒・自得軒・舒陽庵の三軒の塔頭を残すのみとなったという。宝永8年(1711)、楞嚴寺塔頭は連印を以って、伝来の古文書によって楞嚴寺の来歴の次第の口上を述べ、京極藩主へ本堂再興の願いを訴えた歎願書である。
	24	楞嚴寺境内敷地届	楞嚴寺所蔵。明治3年(1870)9月、慈濟軒・自得軒・舒陽庵の三塔頭が中心となり、楞嚴寺の執事とともに連印して境内敷地の書き上げを差し出したものである。
	25	田井部落文書	明治期の土地台帳等。池田家・谷本家・谷田家の3軒で分散所蔵。
	26	二方古墳出土土器	二方古墳からは須恵器が出土しており、自得寺に所蔵されている。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	27	二方神社	跡地。祭神は大己貴命、美尼布命とされる。創立年月は不明。延喜式の制小社に列する。天正6年(1578)5月12日の洪水により社殿が流失し、十余町下流の深淵に霊代が沈んだと伝わる。貞享3年(1686)に備中国福原安宏が一夜神託を受けて、村民とともに仮宮を設けて神霊を奉斎し、土原大明神と称した。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。
	28	田井兵主神社	祭神は須佐之男命。創立年月は不明。天正(1573~1593)の末頃まで、初大荒神と称し、後に三寶荒神と改めた。明治初年(1868)に兵主神社と改称して、宝永5年(1708)に社殿を再建し、明治6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には小枕神社(高彦根命)、中山神社(石疑姥神)、稻荷神社(宇賀御魂命)がある。
	29	田井八柱神社	田井兵主神社の境内社。田井地区には7つの神社(祠)があり、現在も祀られている。
	30	楞嚴寺	天龍寺(京都市)開祖夢窓国師の孫弟子にあたる南溟禪師が延文5年(1360)に開いた寺である。特に足利將軍家や但馬守護山名氏代々の援助を受け、以前は塔頭や末寺が三十余か寺に及んだといわれている。現在、山門内には、慈濟寺、自得寺、楞嚴寺の三か寺があり、苔に覆われた参道や境内は、古い禅寺の様相をとどめている。
	31	自得寺	臨濟宗天竜寺派の大本山天竜寺の末寺である。永享2年(1430)、仏頂山に草創、自得軒として開基された。天正年間(1573~1592)に豊臣秀吉の山名攻略で、焼打ちにあい、約80年間無住の時代があった。
	32	慈濟寺	臨濟宗天竜寺末寺。開基は楞嚴寺15世(天隣寺2世)梅叔和尚が文明11年(1480)に建立した寺。
その他の 有形の 民俗文化財	33	田井の井戸	田井兵主神社の裾にある約1.5mの方形の井戸。深さ1m程度で、清水が湧いている。水道が普及するまでは、村の水源として活用されていた。昔は、村所有、現在は個人が管理している。田井地区には、もう一か所村の共同井戸があったが、子どもの水難事故があり、封鎖されている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	34	田井兵主神社氏神祭	10月8日に田井地区内で行われる。
	35	田井 数珠繰り	1月成人の日前の日曜日に、大数珠と数えるための札を用いて行われる。

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	36	田井 地藏盆	8月23日の夕方6時頃、山門のお地藏様に山内の和尚様が集まり、地藏盆の法要が始まる。24日の早朝にも同じ場所で行う。村の火とも暗くなる前に、山門と地藏堂、山内の地藏様にお参りする。
	37	田井 万灯会	8月13日に行われる。和尚様が読経し、村人が念仏を唱える。地藏堂前にゴザを敷いて行われる。
	38	田井 河原仏 (六地藏さんの仏送り)	8月15日に行われる。各家々が田井川の河原に小石でしつらえた六地藏さんをお祭りして、仏送りを行う。一軒ごとに細かな仕様は異なるが、砂を集めて箱庭を作り、河原の石を拾い集めて積んでいく。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	39	松村遺跡	弥生～古墳時代の散布地。梨の植え替え中に土師器・須恵器・弥生土器片が多数出土。
	40	飛宣谷遺跡	古墳時代の散布地。土師器片が数点散布。
	41	鶴山遺跡	古墳時代の散布地。土器片が散布。地下0.2mから須恵器数点が出土。古墳の可能性もある。
	42	村中遺跡	古墳時代の散布地。土器片が散布。地下2～3m下より須恵器数点が出土。
古墳・その他の墓	43	釜谷古墳	古墳時代の古墳。1mの堀切がある、消滅。
	44	松村1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	45	松村2号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	46	松村3号墳(松村経塚-1)	古墳時代の古墳。円墳、径10m。中世の経塚を伴う。経塚からは経筒・経文・鏡・須恵器が出土。
	47	松村4号墳(松村経塚-2)	古墳時代の古墳。円墳、径13m。中世の経塚を伴う。経塚からは経筒・太刀・鏡・須恵器が出土。
	48	松村5号墳	古墳時代の古墳。楕円形の円墳、50×20m。
	49	松村6号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。
	50	松村7号墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。須恵器片が出土。
	51	松村8号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。
	52	松村9号墳	古墳時代の古墳。円墳、径7m。
	53	飛宣谷1号墳	古墳時代の古墳。円墳、径8m。階段状を示す。
	54	飛宣谷2号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。
	55	飛宣谷3号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。
	56	飛宣谷4号墳	古墳時代の古墳。方形、20m×10m。階段状を示す。
	57	飛宣谷5号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×12m。階段状を示す。
	58	飛宣谷6号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。
	59	飛宣谷7号墳	古墳時代の古墳。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。全壊。
	60	飛宣谷8号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×11m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。
	61	飛宣谷9号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。
	62	飛宣谷10号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。
	63	飛宣谷11号墳	古墳時代の古墳。方形、8m×10m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。

1-05 田井

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	64	飛宣谷 12 号墳	古墳時代の古墳。楕円形、2m×5m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。
	65	飛宣谷 13 号墳	古墳時代の古墳。楕円形、20m×8m。階段状を示す。東に曲輪上の平坦面があり、7～13号墳は山城の可能性もある。
	66	飛宣谷 14 号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×8m。階段状を示す。
	67	飛宣谷 15 号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×8m。階段状を示す。
	68	飛宣谷 16 号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×8m。階段状を示す。
	69	飛宣谷 17 号墳	古墳時代の古墳。方形、5m×8m。階段状を示す。
	70	飛宣谷 18 号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×8m。階段状を示す。
	71	飛宣谷 19 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 8m。階段状を示す。
	72	飛宣谷 20 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 10m。階段状を示す。
	73	飛宣谷 21 号墳	古墳時代の古墳。方形、10m×12m。階段状を示す。
	74	飛宣谷 22 号墳	古墳時代の古墳。楕円形、20m×12m。階段状を示す。
	75	猪淵 1 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 10m。横穴式石室が露出。3.5×2mの石及び玉石が多数散乱している。
	76	猪淵 2 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 5m。
	77	猪淵 3 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 5m。
	78	猪淵 4 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。1m前後の石が数点散乱している。
	79	猪淵 5 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。1m前後の石が数点散乱している。
	80	鶴山 1 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。石室の一部と思われる 1m前後の石が散乱している。
	81	鶴山 2 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。石室の一部と思われる石が散乱している。
	82	鶴山 3 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。石室の石が散乱している。0.65×1mの石組が残る。
	83	鶴山 4 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 8m。
	84	森 1 号墳	古墳時代の古墳。2m×0.9mの横穴式石室が露出。玉石等が散乱しているが石組はしっかりしている。
	85	森 2 号墳	古墳時代の古墳。2m×0.9mの横穴式石室が露出。玉石等が散乱しているが石組はしっかりしている。天井石の上には石燈籠が立てられている。
	86	森 3 号墳	古墳時代の古墳。石室の一部が露出。石が多数散乱し、石室の原形はない。
	87	猪谷古墳	古墳時代の古墳。須恵器系甕・皿数枚と骨・頭髮が出土し、中世墓の可能性もある。全壊。
	88	小枕古墳	古墳時代の古墳。須恵器が多数出土。横穴式石室。県道拡張のために全壊・消滅。
	89	村中 1 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。5m×3m。
	90	村中 2 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。一辺 4m。
	91	村中 3 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。4m×5m。
	92	村中 4 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。10m×7m。
	93	浜谷 1 号墳	古墳時代の古墳。楕円形、10m×20m。1号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
94	浜谷 2 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。4m×20m。1号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。	
95	浜谷 3 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。8m×4m。1号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。	

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	96	浜谷 4 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。一辺 8m。1 号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
	97	浜谷 5 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。4m×10m。1 号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
	98	浜谷 6 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。一辺 4m。1 号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
	99	浜谷 7 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。一辺 4m。1 号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
	100	浜谷 8 号墳	古墳時代の古墳。階段状を示す（方形）。一辺 5m。1 号墳の東側に二重の堀切があり、山城の可能性もある。
城館跡・ 寺社跡	101	田井城跡	中世の城館跡。堀切・郭が残る。山の大きさに比べて小規模な縄張りであることから、村落領主である地侍クラスの城郭と思われる。室町期の城郭を戦国期に堀切・豎堀で補強・改修したものと思われる。
	102	田井薬師寺跡	近世寺院跡。農道建設のため全壊・消滅。石仏は自得寺庭に移されている。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
海・海岸・ 島嶼	103	田井松島	田井の海岸は、但馬沿岸では珍しい黒雲母花崗岩の海岸で、特有な方状節理が発達した断崖や、蓬莱列島、ゴトク島など明るい色彩の岩島が並ぶ。花崗岩礁の海底には鮮紅色の海藻群が見られ、昭和 46 年（1971）に海中公園に指定されている。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	104	楞嚴寺のイチヨウ	楞嚴寺の境内に一際高くそびえる大イチヨウ。四方に枝を張り、境内いっぱい根を張る樹姿は荘厳である。樹高 30m、幹回り 4.7m。
地質鉱物	105	田井の洞門	田井の浜の東側の入り江に位置するスリット状の洞門。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）